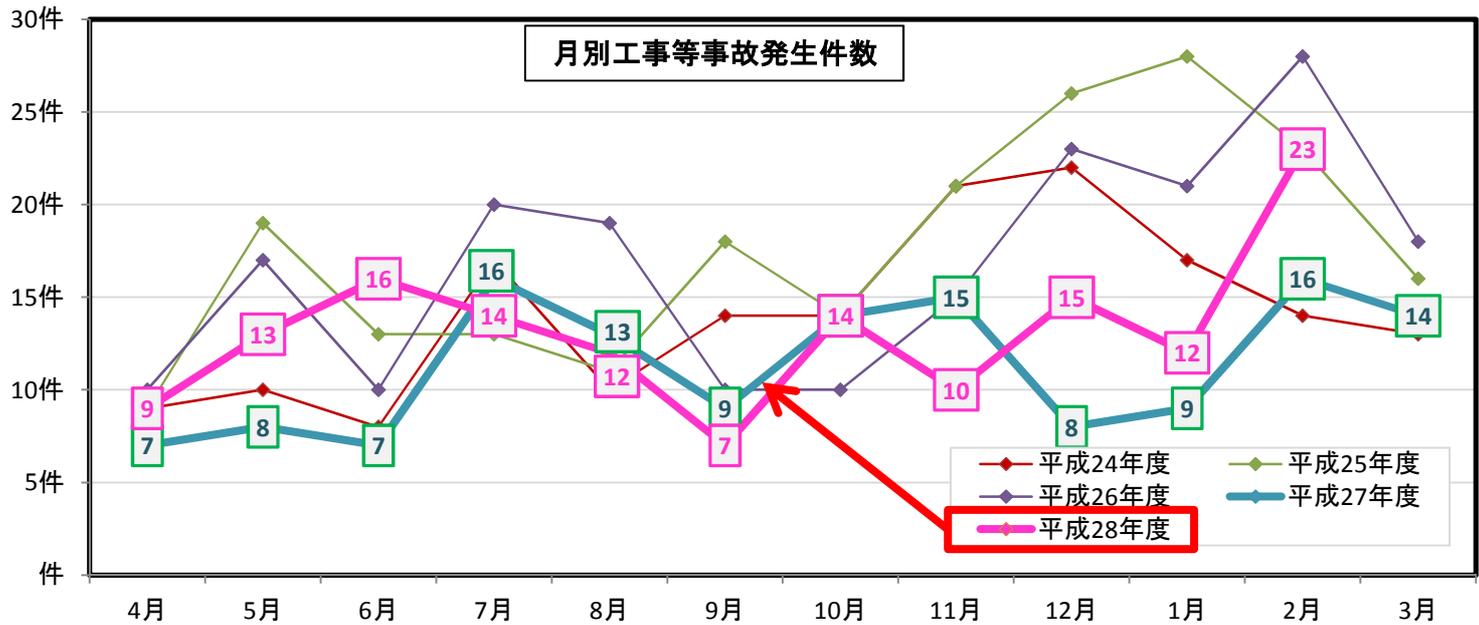
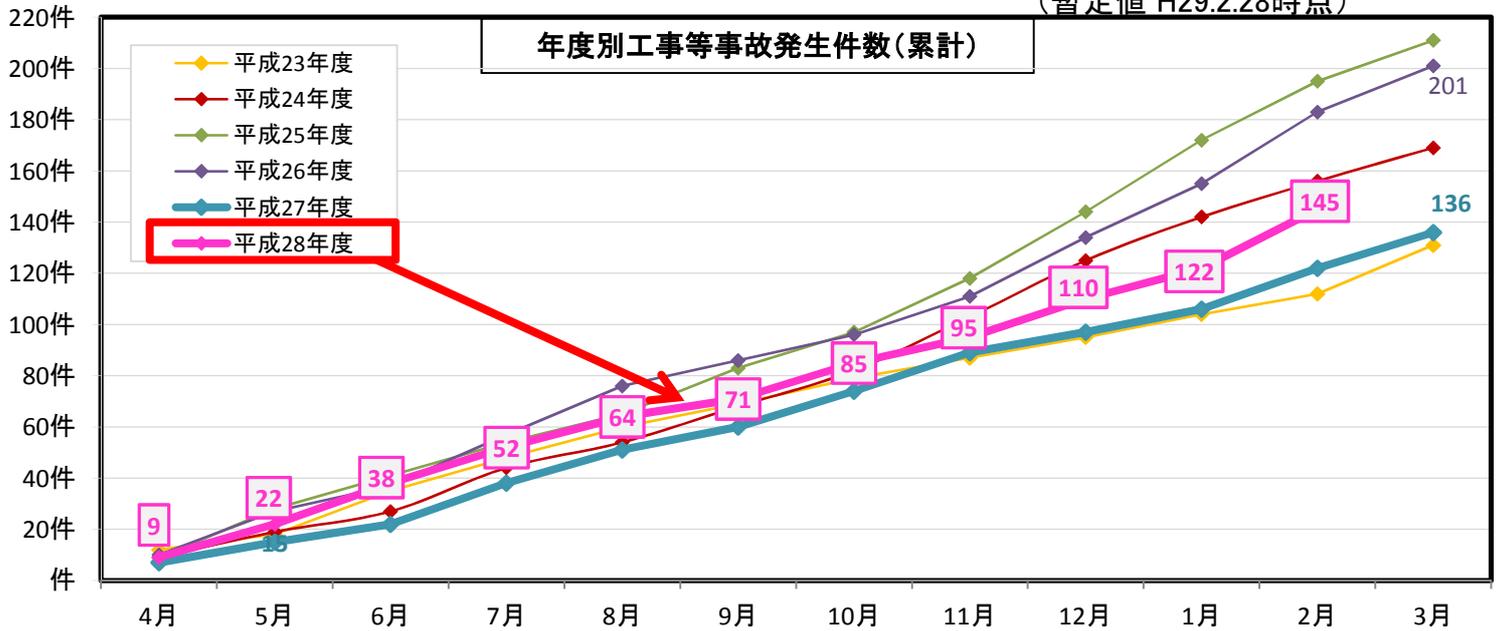


平成28年度直轄工事等発生状況(速報値)

(暫定値 H29.2.28時点)



H27年度(累計)		H28年度(累計)		比較
9月	60件	9月	71件	11件
10月	74件	10月	85件	11件
11月	89件	11月	95件	6件
12月	97件	12月	110件	13件
1月	106件	1月	122件	16件
2月	122件	2月	145件	23件
3月	136件	3月	—	—

H27年度(月別発生件数)		H28年度(月別発生件数)		比較
9月	9件	9月	7件	△2件
10月	14件	10月	14件	0件
11月	15件	11月	10件	△5件
12月	8件	12月	15件	7件
1月	9件	1月	12件	3件
2月	16件	2月	23件	7件
3月	14件	3月	—	—

(表中△は減小)

暫定値ではありますが、平成28年度における事故件数は昨年度に比べて、増加しています。特に車両運転時の事故や作業員の不注意による軽微事故が増加傾向にあります。年度末にあたり、作業員1人1人の安全に対する意識を高め、職場全体が一丸となって工事事故防止に取り組みましょう。

地下埋設管を損傷する事故が多発

平成29年になり地下埋設管を損傷する事故が多発しています。事故の多くが確認不足や認識不足などに起因しています。このような事故を未然に防ぐためには、日々の作業の安全点検を徹底するとともに、具体的な対策が必要です。

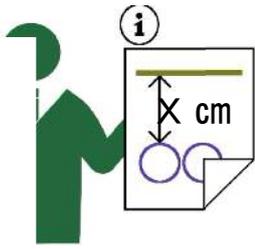
◆平成29年2月中に発生した地下埋設管の損傷事故事例

【事例1】(平成29年2月3日発生)

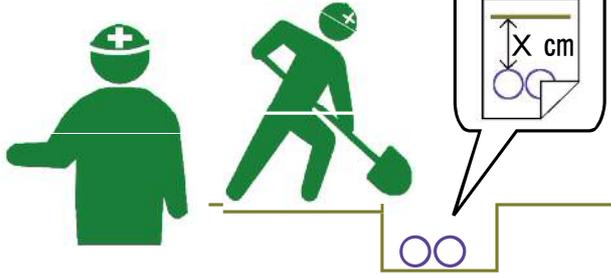
市道部にて電線共同溝管路工連携設備を構築するため小型(0.2m³)バックホウにて掘削中、マンションへの上水道給水管を破損した。

- ①事前に市上水課より埋設資料及びその時の施工写真を入手。
- ②埋設シートを確認し、その下を手掘りにて確認したところ埋設資料どおりのHIPVφ13給水管2本を確認。
- ③試掘の手前の土砂をバックホウにて少しかいたところで、民地側の止水栓より水が吹き出した。掘削の手元を確認したところ土ごと給水管を押したことにより、止水栓のジョイント部を損傷したことが判明。

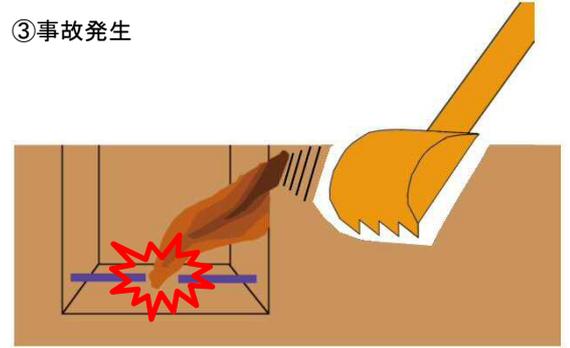
①埋設資料の入手



②埋設管の確認

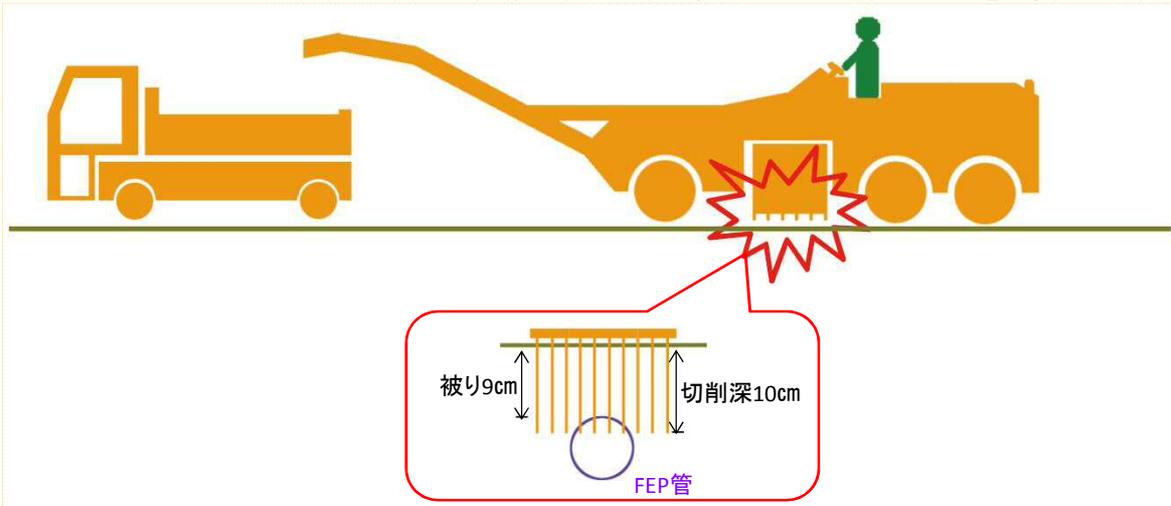


③事故発生



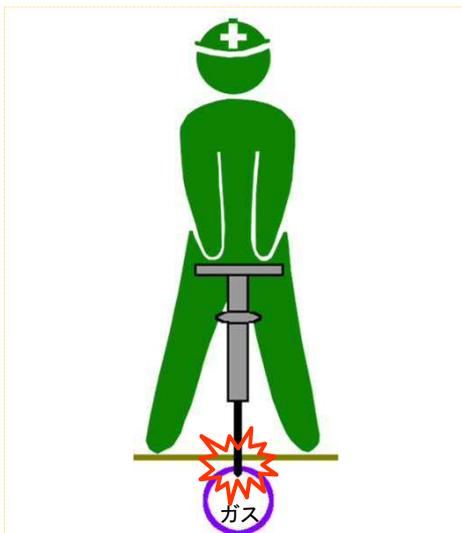
【事例2】(平成29年2月6日発生)

切削オーバーレイ(t=10cm)の切削作業中、路側放送設備配管(FEP管3条 ケーブル土被り9cm)を破損させた。

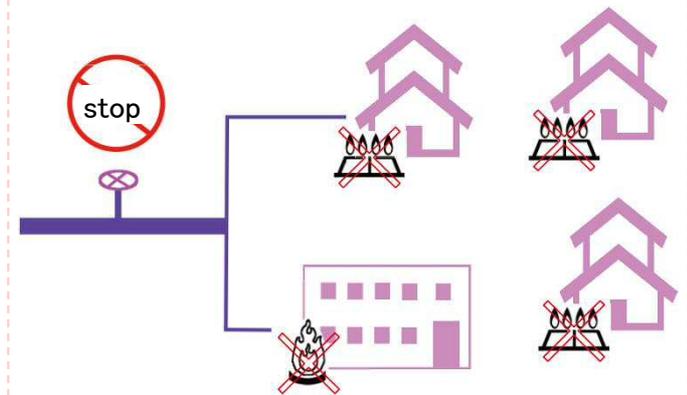


【事例3】(平成29年2月6日発生)

作業員(ハツリエ)が、ハンドブレイカーにてコンクリート取り壊し時に埋設ガス管(プロパンガス)を損傷して、緊急作動弁が働き出張所のガス設備が使用出来なくなった。

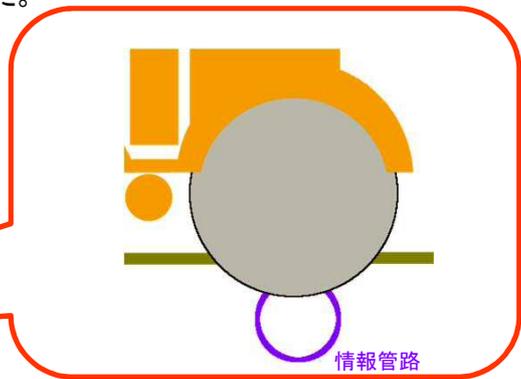


今回は、1出張所における事故でしたが、ガス管を破損させると重大な公衆災害のとなる恐れがあります。



【 事例4 】(平成29年2月9日発生)

トンネル補修工事で線導水の流末処理を施工するため、監査廊部のコンクリートを切断し、切断部のコンクリートハツリ作業をしていたところ、カッターにより情報管路(光ケーブル)を切断していたことが発覚した。

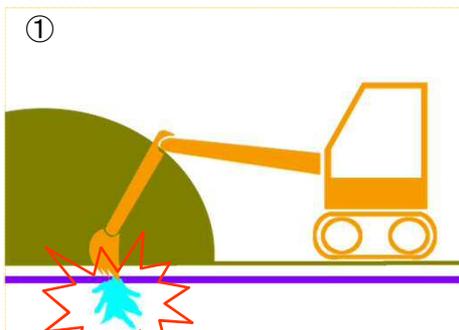


【 事例5 】(平成29年2月14日発生)

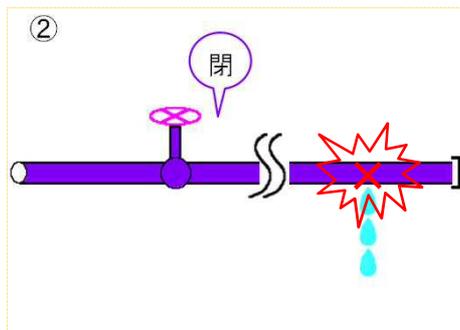
①埋戻し用の土を置いていた箇所で、バックホウにて土をすくった際、深さ10cmのところに埋設されていた引込用給水管φ20mm(キャップ止めにて止水供給停止した管)を引っ掛けて、水が漏水した。

②供給停止管であったため、近傍のバルブを閉め、当日の作業を終了したが、止水バルブの先には他にも供給先があった。

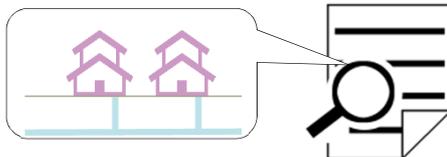
③その後、民間会社から国道維持出張所へ、水道が止まっているとの連絡があり発覚した。



発生直後の事故報告無し



現地周辺状況の確認無し



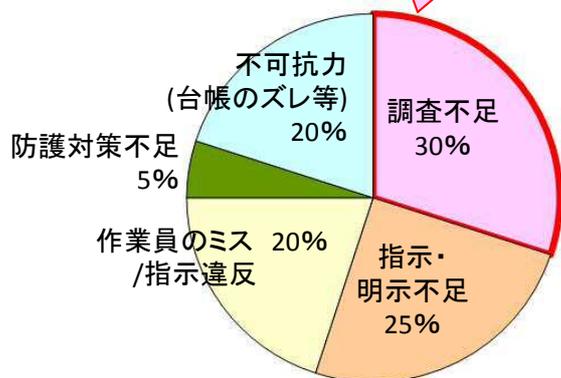
◆地下埋設物事故の要因

地下埋設物の存在を...



【 事故の発生要因 】

- 正確な位置確認不足(近接施工部の試掘を怠る)
- 試掘による管路位置を把握し、他の箇所の試掘等を怠る
- 現地周辺状況の把握不足



事前確認を...



【 事故の発生要因 】

- 事前確認を実施したが
- 管理者が把握していない
 - 台帳に記載なし等

事前確認の未実施
○管理者との確認
○台帳確認
○立会の未実施
重大事故発生の可能性が大きい

地下埋設物事故の事故防止策

①事前調査の徹底

- 台帳・埋設資料・写真等の入手
- 管理者との打ち合わせ・確認
- 立会の実施
- 「立会打ち合わせ調書」の作成・提出

②試掘の検討

事前調査によって確認のための試掘が必要となった場合は、監督職員と協議する。
(必要に応じて設計変更の対象となります。)

③危険箇所について、試掘を行い現場に位置と深さを明示

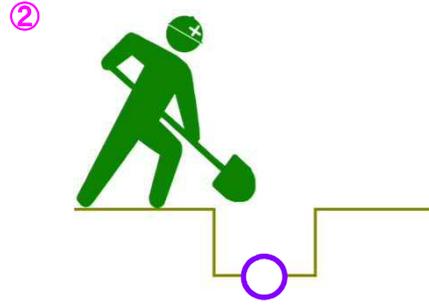
- 掘削内に管路がある場合、探知機を活用して細かく測定、影響範囲を確認
- 探知機にて埋設位置・埋設深を調べ、路面にマーキング
- 試掘箇所は、カッターを入れずにはつりのみとする
- はつり方法はブレーカーにて埋設管に影響の小さい箇所から
- ブレーカー→チッパー→ハンマにて慎重に取り壊す

④作業方法・施工計画の検討

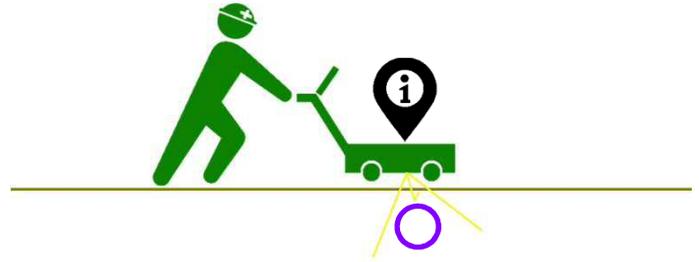
- 防止対策の検討実施
- 危険箇所(横断水路)にはチェックリストを作成する(下表)
- 防止対策は、現場に即した最適な手法を組み合わせる
- 作業ミーティングで情報を共有する

⑤危険箇所の周知徹底

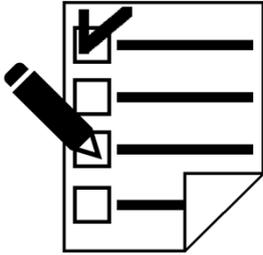
朝礼時に従事者全員に説明・指示を行い、危険箇所を周知する



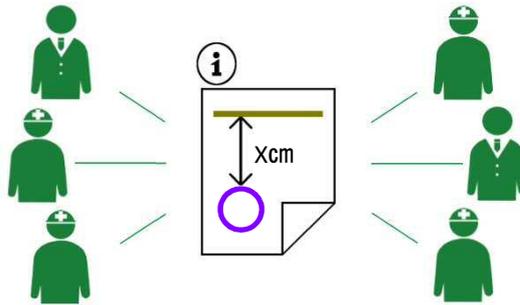
③a・b



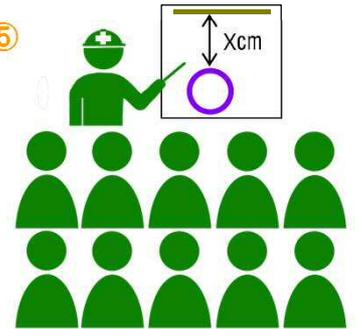
④b



④d



⑤



危険箇所(横断水路)チェックリスト

測定場所	確認項目	工区担当	現場代理人	監理技術者	品質証明員	支店安全衛生管理者
		〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
No.〇〇 +△m	設置場所は的確か					
	試掘方法は的確か	〇/〇 ●				担当者氏名
	探知機で測定したか					
					
	管路深さのデータをマーキングしたか					日付 ✓印・サイン・判など
	浅埋設場所の明示をしたか					
	作業員と打ち合わせをしたか					
	作業員と現場確認をしたか					
.....						

試掘や、掘削をする前は埋設管管理者としっかりと協議しましょう。また、作業日にミーティングをしっかりと行い、作業手順や危険箇所の情報共有を行いましょ。



建設業年度末労働災害防止強調月間

実施期間:平成29年3月1日~3月31日

主唱:建設業労働災害防止協会

これから迎える年度末は、完工時期を迎える工事が多く、さまざまな作業が輻輳して行われることとなり、労働災害の多発が危惧されます。一層の安全衛生水準の向上を目指し、労働災害防止活動を強化しましょう。

詳しくは https://www.kensaibou.or.jp/activity/publicity_work/against_prevention/campaign_end_turm.html

